

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市自殺対策協議会(令和6年度 第1回)				
事務局 (担当課)		精神保健福祉課 電話042-769-9813(直通)				
開催日時		令和6年8月29日(木) 午後1時~午後2時30分				
開催場所		相模原市立産業会館 4階 懇談室				
出席者	委員	18人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	8人(地域包括ケア推進部長、他7人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
議 題		(1) 相模原市の自殺の状況について (2) 第3次相模原市自殺総合対策の推進のための行動計画について (3) 第3次相模原市自殺総合対策の推進のための行動計画の進行管理と自殺総合対策の推進について ア 庁内の取組状況について イ 関係機関・団体等の取組状況について (4) その他 ア 自殺対策強化月間(9月)について イ その他				

## 議 事 の 要 旨

### ( 1 ) 相模原市の自殺の状況について

精神保健福祉センターから資料 1 に沿って説明を行った。

#### < 意見等 >

なし

### ( 2 ) 第 3 次相模原市自殺総合対策の推進のための行動計画について

事務局から資料 2 に沿って説明を行った。

#### < 意見等 >

( 稲田委員 ) 第 3 次相模原市自殺総合対策の推進のための行動計画 ( 以下、「第 3 次行動計画」という。 ) の目標値では、自殺死亡率を令和 1 0 年に 1 1 . 8 以下にする、と定めているが、人数にすると何人になるのか。

( 事務局 ) 8 5 人である。

### ( 3 ) 第 3 次相模原市自殺総合対策の推進のための行動計画の進行管理と自殺総合対策の推進について

ア 庁内の取組状況について

イ 関係機関・団体等の取組状況について

事務局から資料 2 に沿って説明を行った。

#### < 意見等 >

( 取住委員 ) 心のサポーターとゲートキーパーの違いについて説明いただきたい。

( センター ) 心のサポーターとゲートキーパーは重なる部分は多いが、期待される役割が異なる。心のサポーターは、メンタルヘルスや精神疾患への正しい知識と理解を深めて精神疾患への偏見をなくす、一方、ゲートキーパーは、自殺の危険を示す SOS のサインに気づき、声をかけ、話を聞き、必要な支援につなげ、見守る、といった役割が期待されるものである。

( 西岡委員 ) 心のサポーター養成研修、ゲートキーパー研修の開催方法について説明いただきたい。

( センター ) 心のサポーター養成研修は、4 縣市協調で開催しており、令和 6 年度はその内の 2 回を本市で開催している。ゲートキーパー研修は、心のサポーター養成研

修とタイアップする形で、心のサポーター養成研修の後に開催しており、心のサポーター養成研修の受講者ほぼ全員が、受講している。

研修の形式が集合型の研修スタイルだと、受講者は、会場に「来る」必要があり、決められた日程で参加しなければならないといったハードルがある。受講のハードルを下げる一つ的手段として、本市では、「リブちゃんネル」にゲートキーパー研修の動画を視聴できる厚生労働省のサイトを案内する形で、市民に周知している。

(井上委員)心のサポーター養成研修とゲートキーパー研修については、自身に自殺願望のある友人がいることもあり、双方受講済みである。ゲートキーパー研修では、SOSを発信してきた人に対する関わり方等についての講義だったが、実際に受講してみた感想として、もう少し医学的な知識等の情報を得ることができる内容だと、実際にゲートキーパーとしての役割を果たす際に役に立つのではないかと感じた。来年度以降、心のサポーター養成研修やゲートキーパー研修の内容について、変更やアップデートする予定はあるのか伺いたい。

(センター)市としては、現状研修内容の変更やアップデートの予定はしていない。心のサポーター養成研修については、限られた時間の中で精神疾患について理解し、精神疾患のある方と適切なコミュニケーションが取れるよう、国においてカリキュラムが定められているものである。

一方、ゲートキーパー研修は、自殺のリスクがある人について、早めに気が付き、声をかけ、話を伺い、必要に応じて関係機関と連携し、支援を行える人材を養成する研修であるため、大枠は国で定めているが、年代や職業など受講者の特性に応じて、講義内容を工夫することができるものである。講師は受講者の特性に応じた展開が望まれる。

(熱田委員)自身は他市において、神奈川県とともにモデル都市として、心のサポーター制度を立ち上げた経験がある。心のサポーター制度においては、まずは、支援者自身が健康であることが前提にあるのではないかと、という考え方から、支援者自身のセルフケアを大事にする、その上で、周囲の人の課題に対応する、というコンセプトがあった。心のサポーター養成研修は、最初に「心の健康」とは何か、という導入から始まるため、より専門的な部分まで網羅するのは難しい。そのため、まずは心のサポーター養成研修を受講してもらい、研修内容に関心を持った方が、更に深い知識を得られるようフォローアップ研修を実施し、スキルアップの場を提供する取組を行った経過がある。

(会長)神奈川県司法書士会の取組について。専門職として、ゲートキーパーの役割を求められることから、1回は必ずゲートキーパーの基礎的な研修を受講し、基本的な相談技法等を学んでいる。基礎的なものに加え、ハイレベルな研修として薬物依存症について医師を招き、薬の知識や副作用等の専門知識を学べる場を提供している。

また、研修を受講した司法書士を直接病院に派遣し、相談を受け付けるベッドサイ

ド法律相談事業を行っている。

(会長) 相模原市社会福祉協議会の取組にある「ふたばROOM」について、初めて出席している委員もいるため、説明をお願いしたい。

(加藤委員) 令和3年度に女性のつながりサポート事業として、市より受託した事業である。女性の自殺者数増加の要因の一つとして、コロナ禍により、女性のつながりが希薄になってしまったことが挙げられていることから、女性が気軽に参加できる居場所を提供する事業である。

令和5年度については、特に若い世代である10～20代の女性を対象を絞り、自宅で一人悩んでいた人がふたばROOMに来ることで、ハンドメイドや会話を通じ、孤立感や孤独感を解消することを目的としており、少しでも横のつながりができたらと考えている。本事業は、相模女子大学の学生と連携し、若い女性がどのようなことに興味・関心を抱いているのかを参考にしている。

また、女性相談員による女性のための相談、生活の不安や健康に関する相談等を受け付けている。職員のほかに弁護士や、市の保健師等も相談に応じている。相談の内容としては、仕事、生活の不安、また女性特有の病気を含む健康に関する相談が多く、引き続き、つながりを大切に安心できる場を提供していきたい。

要望としては、女性特有の身体の悩みについての相談を受けることがあるため、引き続き、市の保健師等に来てもらい、専門相談に応じてもらいたい。参加者も安心を得ることができる。

(会長) 委員の所属団体等で、どのような取組をしているのか情報交換を行うことができた。委員同士連携を図り、それぞれの取組に活かしていただきたい。

今期は公募より、3名の委員が委嘱された。委員の所属先での取組内容や、本協議会への意見等があれば発言をお願いしたい。

(熱田委員) 条例を策定し前向きに自殺対策に取り組んでいる本市や各関係団体の取組への姿勢に対して敬意を表したい。そのような中でも、自殺者の中で何かしらのSOSのサインがあった人が57.1%(資料1 P9 表8.原因・動機の判断材料) また未遂歴のある人が22.5%(資料1 P9 表9.自殺未遂歴の状況) いることから、自殺対策についてはまだやるべきことがあると感じている。

自殺対策は、追い込まれた末の死であり、心の視野狭窄がもたらすもの。死ぬしかない、という一点に心が奪われてしまうため、情報が入るように、心を解きほぐしていく必要がある。あらゆる場所、あらゆる機会ですべてができることを取り組むことが大事である。今後も本協議会等で真摯に取り組んでいくことを期待している。

(井上委員) 自身は一学生であるが、経験上、自殺や心の病気について興味を持つようになり、本日の協議会では、国や市レベルで自殺対策をしていることを知る機会となった。また、学生の中でも様々な悩みを抱えている人がおり、自身の身近な友人にもいる。学生が悩みを抱えている場合、一番最初にそれをキャッチできるのは、周り

にいる友人が多いと思うので、自身が友人よりSOSが発信された際には、ゲートキーパーとして、本日の協議会で得た知識等を活かし、様々な救いの道があることを伝えたい。

(栗林委員)自身はフリースクールでボランティアをしている。本市の実情に応じた取組について充実していると感じた。特に、かかりつけ医うつ病対応力向上研修について、精神科医療と地域のかかりつけ医や産業医とをつなげるという意味で、とても意義のあるものと感じた。また、悩みを抱えていても相談できない人は一定数いる。

「第3次行動計画」P32に自殺を考えた時に相談しようと思わなかった理由として「他人に相談するようなことではないから」が39.2%いることから、ゲートキーパーも大切だが、制度に基づいた相談体制の充実を図ることも重要と感じた。

(会長)本日いただいた意見を踏まえ、自殺対策を更に推進し、第3次行動計画の進行管理をしていくこととする。

#### (4) その他

##### ア 自殺対策強化月間(9月)について

精神保健福祉センターから参考資料3に沿って自殺対策強化月間(9月)の取組みについて説明を行った。

#### <意見等>

なし

##### イ その他

#### <意見等>

(会長)神奈川司法書士会と東京司法書士会とが合同で来年2月1日関内ホールにて自殺対策に関するシンポジウムを開催予定である。パンフレット等が出来上がった際は、事務局を通じて委員の方に周知をしたい。

(青木委員)先日、相模原市立図書館に行った。子どもが本を読むスペースに、恐らく不登校や家庭内で課題を抱えた子ども向けに「ひとりじゃないよ、あなたの“生きる”を応援したい」に掲載されているような相談窓口を、模造紙に手書きで書いたものを見つけた。手書きは人の目にとまり、とてもいいと感じたため、自殺対策の啓発活動でも活用できるといい。

以上

令和6年度相模原市自殺対策協議会 第1回会議（出欠状況）

（令和6年8月29日開催）

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	稲田 健	北里大学医学部		出席
2	西岡 直子	相模原市医師会		出席
3	土屋 敦	相模原市病院協会		欠席
4	田中 弘子	相模原市薬剤師会		出席
5	岡田 眞一郎	相模原地域産業保健センター		出席
6	相馬 圭	相模原市立小中学校長会		出席
7	取住 悦子	相模原商工会議所		出席
8	加藤 健司	相模原市社会福祉協議会		出席
9	青木 亜也	神奈川県弁護士会		出席
10	比留川 昇良	神奈川県司法書士会	会長	出席
11	戸部 恵美子	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
12	山口 信郎	相模原市自治会連合会	副会長	出席
13	十川 いづみ	横浜いのちの電話		出席
14	和泉 貴士	全国自死遺族総合支援センター		欠席
15	熱田 辰雄	公募		出席
16	井上 由子	公募		出席
17	栗林 志誓	公募		出席
18	長屋 明	相模原公共職業安定所		出席
19	米本 良子	神奈川新聞社		出席
20	小野崎 雄一	相模原警察署		出席